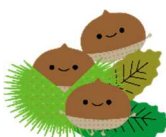


# 知識は 旅をする

千葉県立東部図書館だより

2020年11月

第69号



『仮名読八犬伝』為永春水(2代目)作、歌川国芳画ほか  
〔「菜の花ライブラリー」千葉県デジタルアーカイブ〕

## ▼ 新型コロナウイルス感染拡大の防止

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当館では「3つの密」(密閉、密集、密接)を避けるとともに、入館時の検温、マスクの着用、手洗い、咳エチケット、対人距離の確保などの対策を引き続きお願いしております。皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

## ▼ 資料展示コーナーのご案内

テーマ：「本に出会うための本」

皆さんはこの秋、お気に入りの一冊との出会いはありましたか？ まだの方はもちろん、お気に入りの見つかった方も、新たな出会いを探してみたいかがでしょうか。11月19日まで。

次回展示：おいしい本(仮題)

## ▼ オリ・パラコーナーのご案内

オリ・パラコーナーでは「ホストタウン相手国を知ろう」と題して、近隣の市町がホストタウンになっている国と地域について紹介しています。



旭市はドイツとザンビア。銚子市は台湾。山武市はスリランカ。横芝光町はベリーズ。関連する資料を展示してありますので、思い出深い国はもちろんのこと初めて名前を聞いたという国も、これを機会に調べてみてはいかがでしょうか。

## ▼ ガラス展示コーナーのご案内

テーマ：「家で楽しむ美術館」

絵や彫刻、工芸品などの県立美術館の展示図録を多数展示してあります。県立美術館や菜の花ライブラリーのQRコードも掲示しましたので、スマホでもお楽しみいただけます。11月19日まで。

次回展示：千葉の考古学(仮題)

## ▼ 年末年始の休館のお知らせ

12月28日(月)から1月4日(月)まで休館します。なお、休館中でも資料の返却はできますので、東部図書館正面、入口左側のブックポストをご利用ください。

※上記の内容は、新型コロナウイルス感染症対策等の影響で、中止・変更される可能性があります。ご理解ください。

ホームページ URL

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

スマートフォンの

QRコードリーダーでアクセスできます→



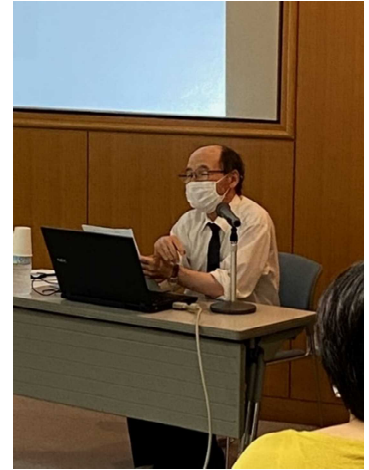
令和2年度 歴史講座 報告

## テーマ「寺社参詣の旅と房総」

講師：中川 和明氏（千葉県文書館） 令和2年9月18日(金)

新型コロナウイルス禍の中で県立図書館としては、初めての県民向け講座を開催しました。座席数を会場収容人数の半分以下とし、手指消毒や換気など感染拡大防止策を講じながらの開催でしたが、定員いっぱいの申込みをいただき、改めて県民からの図書館イベントへの強い期待を感じました。

千葉県文書館の中川和明氏による講演では「伊勢金毘羅道中記」（『習志野市史 第3巻 史料編2』収録）を参照しながら、千葉県から伊勢神宮までの道中を辿っていきました。



徒歩の旅なので途中でわらじを買い替えていること、日記の作者は蕎麦が好きだったのではないかなど、道中記からわかる江戸時代の庶民の生活や旅の様子を詳しくお話いただきました。

また、文書館が所蔵する「伊勢講積金預帳」「伊勢参宮名所順路之図」「絵葉書 伊勢名所」など残されている様々な史料も画像で紹介いただきました。

後半では、県内の寺社参詣として、望陀郡神納村（現袖ヶ浦市）からの成田参詣の届書や平田篤胤の香取参詣にも触れていただき、地元の話に参加者も興味深く耳を傾けていました。

アンケートでは「映像を使っただけの説明で分かりやすかった」や「具体的な説明をもらえて興味を持ちました」など、多くの方に満足いただける内容となりました。

### <参考資料>

- 『習志野市史 第1巻 通史編』（習志野市教育委員会編 習志野市役所 1995）〔中央 C231NA/N51/5-1〕〔東部 C231/G02-1/1〕p572に「伊勢金毘羅道中記」が解説されています。
- 「伊勢金毘羅道中記」『習志野市史 第3巻 史料編2』（習志野市教育委員会編 習志野市役所 1993）p632-645所収〔中央 C231NA/N51/5-3〕〔西部 C231/G02-2/3〕〔東部 C231/G02-1/3〕
- 『房総の伊勢信仰』（千葉県神社庁「房総の伊勢信仰」企画委員会編 雄山社 2013）〔中央 C175/52/〕〔西部 C175/6/〕〔東部 C175/11/〕



## 図書館ぶらり散歩 (49)

### 『全国五つ星の手みやげ』

岸朝子選

東京書籍 2008年

[59665/31]

### 『世界をまどわせた地図

#### 伝説と誤解が生んだ冒険の物語』

エドワード・ブルック=ヒッチング著

日経ナショナルジオグラフィック社

2017年 [29038/49]

旅の締めと言えやお土産！贈り物として？自分用に？お店で悩んでいる時間もワクワクしてしまいますよね。こちらの本は北海道から沖縄まで、その土地に伝わる銘菓や郷土菓子など、手みやげにピッタリな多彩なお菓子が紹介されています。今までに食べたことのあるものやこれから食べてみたいもの、お土産目当てに次の旅先を決めてみるのも面白いかもしれません。

価格や販売店などの情報も載っているので、なかなか外に出られない昨今、お取り寄せの参考にしてみるのもオススメです。

旅や旅行に必要なものの1つに地図があると思います。もしもその地図に描かれていることが事実でなかったら、たまったものじゃありませんよね。

この本では昔の地図に描かれた国や大陸、種族、海の怪物など当時は存在が信じられながらも実際には実在しなかった幻の世界を、当時の美しい地図とともに紹介しています。中には16世紀から2009年まで存在が信じられていたという島まであるから驚きです。幻の島や、幻の島を求めて航海に出た探検家のエピソード、幻の怪物や種族に心躍らされること間違いなしです！

### 『雨天炎天 Greece』

村上春樹 文 松村映三 写真

新潮社 1990年

[9156/MU43/1]

## 旅の本

### 『ロードムービー』辻村深月著

講談社 2008年

[9136/ツミ 5]

ギリシャのアトス半島には女人禁制の修道士の自治領があり、今も約2000人の修道士が自給自足の修行生活を送っています。本書は村上春樹氏がアトスを旅した紀行文です。

滞在できる時間は3泊4日、宿泊と食事は修道院、交通手段は徒歩のみ。悪天候続きの過酷な旅ながら、訪れた修道院の対応や出逢った人々との交流が淡々、飄々としたタッチで描かれ、一緒に旅している気分が味わえます。驚くべきは修道院に住む猫のエサ。一体何を食べていたのか？ぜひ読んで確かめてみてください。

夢中になって本を読んでいると、まるでその本の世界を旅しているような気持ちになることはありませんか。この本は3つの作品からなる短編集です。表題作『ロードムービー』の主人公はトシとワタル。2人はクラスメイト。ある日2人で家出を決意します。彼らはなぜ2人で旅に出ることにしたのでしょうか。子どもの目線で残酷な現実の世界が描かれていきます。

作中の風景や言葉は読み手の心にどこか懐かしく、もどかしい気持ちを抱かせます。登場人物たちはどんな気持ちを抱き成長していくのでしょうか。ぜひページを開いてこの本の世界を旅してみてください。

※[ ]内は資料の請求記号です。

生誕 200 年

はまぐち ごりょう

濱口 梧陵 1820-1885



〈こんな人、こんなこと、  
こんなところ (6)〉

突然ですがクイズです。この写真の人物、濱口梧陵はどんな人でしょうか？ 次の中から該当するものを選んでください。

- ① 稲むらに火を放ち、津波から村民を救った人
- ② ヤマサ醤油の七代目当主
- ③ 勝海舟と一緒にアメリカへ行かないかと誘われたことがある人

正解は…全部です！

出典：国立国会図書館 近代日本人の肖像

濱口梧陵は 1854（安政元）年の安政南海大地震で「稲むらの火」をかかげて村民を津波から救済しました。暗闇の中、津波から避難する目印にするため稲むらに火をつけたとされています。このエピソードは「稲むらの火」というタイトルで 1937（昭和 12）年から 10 年間にわたり小学校の国語教科書に掲載されました。また、被災後に梧陵は私財を投じて大堤防を築きました。1946（昭和 21）年に昭和南海地震が起こり、4m の津波が襲いましたが、この堤防のおかげで被害を最小限に抑えることができました。驚きなのは、梧陵が稲むらに火をつけた 11 月 5 日が国連により世界津波の日に制定されていることです。「稲むらの火」のお話は世界にもつながっているのですね。

梧陵は、紀伊国の広村（現在の和歌山県広川町）に本宅を持ちながら下総国の銚子（現在の千葉県銚子市）で醤油作りも行っていました。当時、銚子は広村民の主な出稼ぎ先の一つでした。銚子の気候が醤油造りに適していたため、濱口家の祖先が湯浅村（広村の隣村）の醤油醸造法を伝えて、銚子で醤油醸造業を創始したと言われています。梧陵は数年おきに広村に戻るなど、銚子で醤油作りを行いながら広村の復興にも力を入れていました。

梧陵が生きたのは幕末で、ペリーが来航するような動乱のときでした。勝海舟とも親交があり、勝海舟が洋書を買うための資金援助をしたり、日本の将来について熱く語り合ったりするような仲でした。勝海舟から「一緒にアメリカに行かないか？」と誘われたこともあるそうです。

今年は濱口梧陵生誕 200 年です。この機会に皆さんも東総の偉人に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。

**濱口梧陵に関する資料を県立図書館では所蔵しています。〔 〕は所蔵館と請求記号です。**

- \* 『非常の人 濱口梧陵』（関根 昌吾著）〔東部 C289/ハ1〕
- \* 『津波とたたかった人 濱口梧陵伝』（戸石 四郎著）〔東部 C289/ハ2〕〔中央も所蔵〕
- \* 『濱口梧陵と医学』（川村 純一著）〔東部 C289/ハ3〕〔中央・西部も所蔵〕
- \* 『濱口梧陵物語 「稲むらの火」をかかげた人』（戸石 四郎著）〔東部 C289/ハ4〕〔中央も所蔵〕
- \* 『11・5 津波救国 〈稲むらの火〉濱口梧陵伝』（大下 英治著）〔東部 C936/ハ1/16〕

- 県立図書館の資料は、市町村立図書館などを通じて利用することもできます。お近くの図書館、公民館図書室等の読書施設にご相談ください。
- 県立図書館では、千葉県に関する資料を収集しています。グループ・職場などで資料を発行されたときには、情報をお寄せください。

### 編集長の独り言

ウィズコロナ時代も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を図り、皆様のご理解とご協力を得ながら、県立図書館の資料や情報をご利用いただけるよう努めて参ります。今後の課題についても、他館での取組なども参考に検討していきたいと思っております。

編集・発行：千葉県立東部図書館  
〒289-2521

千葉県旭市ハの 349

TEL 0479-62-7070

FAX 0479-62-7466

URL: <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>